

# 両価的で複雑な表情の知覚に関する研究：一対比較による検討 A Study on the Perception of Ambivalent Emotion Expression

○藤澤隆史<sup>1</sup> 石盛真徳<sup>2</sup> 風井浩志<sup>1</sup> 長田典子<sup>1</sup>

(1 関西学院大学理工学研究科・2 京都光華女子大学人間科学部)

E-mail: fujisawa@ksc.kwansei.ac.jp

## 1. はじめに

顔面における表情表出の非対称性と感情および内的特性の関連性については、対称的なものに比較して研究例が少ない。本研究では誘意性評価 (valence) がはっきりとしたポジティブな感情 (例: 喜び, 幸福感) およびネガティブな感情 (例: 悲しみ, 怒り) ではなく、両者が混在したアンビバレントな感情 (例: 苦笑い) に焦点をあて、顔面における非対称的な表情表出との関連性を示すために検討を行なった。

## 2. 方法

**実験参加者:** 大学生 63 名 (男性 55 名, 女性 8 名) であり, 平均年齢は 20.5 歳である。

**実験刺激:** 基本感情の表情図形として快・不快の 2 種類を作成した (図 1a, b)。さらに各図形を上下および左右に分割し, それらの組合せによって, 両価的な表情図形を 4 種作成し, 合計 6 種の表情図形を刺激として用いた (図 1c-f)。

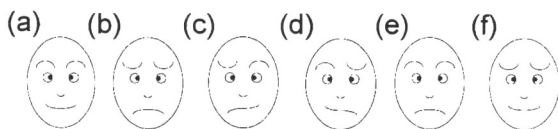


図 1. 実験刺激に用いた表情図形.

**手続き:** シェッフエの一対比較法を用いて, それぞれの表情図形についてのイメージを測定した。各実験参加者は 6 つの表情図形全ての組合せについて 6 件法で評定した。各表情図形の順序効果を相殺するために, ランダムな刺激系列を 4 パターン用意して提示した。  
**測定項目:** 先行研究を参考に, 「うれしい感じ」, 「疑問に思っている感じ」, 「弱々しい感じ」の 3 種について回答をもとめた。

## 3. 結果および考察

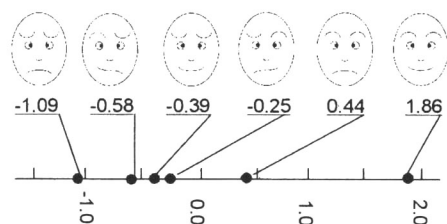
それぞれのイメージについて推定された母数を図 2 に示す。まず「うれしい」のイメージについて検討すると, 快(a)・不快(b)を両端として, 両価的な表情は全てその間に分布している。特に左右非対称の組合せである(c)と(d)において, (c)の方がより「うれしそう」という印象を与えていることは, 脳の半球優位性の論点と関連して興味深い。

次に「疑問」では, 左右非対称のものが「疑問に思っている」表情として知覚されていることが分かった。

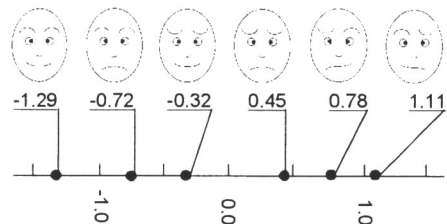
「疑問」が生起するのは, ある状況において解決の方向性 (ポジティブなのかネガティブなのか) や先行きが不透明なときにおいてである。この valence の両価性が表情として表出されていると考えられる。

最後に「弱々しい」では, 「うれしい」とほぼ逆の結果となったが, (e)の表情は, (a)と同程度に「強い感じ」の印象を伴って知覚されていることが明らかとなった。

### (1) うれしい



### (2) 疑問



### (3) 弱々しい

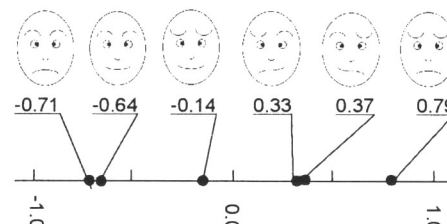


図 2. 各イメージの推定母数

## 4. おわりに

本研究では両価的な表情表出について, 6 種の図形を用いて一対比較法によって検討を行った。今後は, 感情の表出と知覚に関わる神経基盤との関連性について, より詳細に検討することを予定している。

## 参考文献

- [1] 藤澤, 石盛, 林, Cook: “両価的な感情表出についての予備的研究”, 日本心理学会第 70 回大会発表論文集, pp. 1053, (2006)。